

令和８年度７月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

【 会議名称 】 令和８年度７月期古賀市社会教育委員の会議

【 日 時 】 令和８年７月２４日（金） １８時３０分～２０時００分

【 場 所 】 リーパスプラザこが交流館 １０３洋室

【 内 容 】 古賀市の社会教育の現状について

【 出席委員 】 園議長、橋爪委員、安部委員、石川委員、梅谷委員、大賀委員、倉掛委員、坂崎委員、（以上委員８名）

【 欠席委員 】 江口委員、藤田委員

【 事務局 】 生涯学習推進課長、職員２名

【 傍聴者数 】 ０名

(配布資料)

・レジュメ

1. 開会

2. 協議事項

・古賀市の社会教育の現状について

・第11回生涯学習笑顔のつどい

日時：令和9年2月7日(日) 10:00～12:10

(園議長)

そろそろ8月になるため、「笑顔のつどい」のテーマと団体を決定したい。今回は外部団体に発表を任せるだけでなく、委員自身に関わり、調査分析した内容を発表する形にしてはどうか。発表団体は2つに絞ることを提案する。

① 読書活動を通じた地域のつながり（みんふるや、ナツメ書店、図書館の取り組み）

② 学校と地域のつながり（花見校区の寺子屋の事例など）

花見校区と寺子屋には江口委員、大賀委員も関わっているため、準備など進めやすいのではないか。また、社会教育委員の個人での課題や現状を発表してもらうのはどうかと思う。

(梅谷委員)

デジタル化が進む中で、本の価値や情緒をどう伝えるかはとても良いテーマである。

また、社会教育委員の本来の役割は、イベントを開催することではなく、委員自身が調査研究や研修を通して育ち、地域づくりに関わっていくことである。過去の歴史を踏まえ、委員自身が関わった事例を共有・発信していくという議長の提案に賛成する。

(大賀委員)

みんふるやの本を通じた取り組みはいいと思う。本を読んで創作や、楽しめる活動ができそう。ただし、花見校区では、あまり浸透していないように感じた。

(園議長)

発表は3団体だと時間が足りないので、社会教育委員の現状の取り組みも入れると、2団体にしたいと思う。その中に必ず「若い世代のつながり」を入れる。

(安部委員)

昨年の「笑顔のつどい」を見ていて、社会教育委員の活動がイベント開催のためだけになっているのではないかと疑問を持っていた。過去の取り組みを振り返り、これからの新しいステップとして現状と未来を考えるような、今までとは違う取り組み方に賛成する。市議会議員も参加を巻き込んで行きたいと思う。また、研修会でいい話を聞いても「よかったね」だけで終わってしまうため、せっかくいい話を聞いたので、古賀に合ったいい形で実践できないかと思う。

(園議長)

実践までは短期間では難しいため、好事例を紹介し広げていくことも社会教育委員の役割である。

(石川委員)

デジタルの時代において、昔のように親が子に読み聞かせをして情緒を育む機会が減っているのではないかと危惧している。読書活動を通じた情緒の育成について考えることは、非常に良いテーマだと思う。

(倉掛委員)

古賀東小学校の5、6年生の家庭科のミシンの授業で、地域ボランティアがサポートに入る取り組みを行った。教員が一人に対応するのは難しく、遅れている子どもへの手厚いフォローができたため、学校からも子どもからも非常に喜ばれた。

一方で、継続的な連携のためには、単に学校のマンパワー不足を補うだけにならないよう、学校側が地域ボランティアをどう位置づけるかというバランスや、個人情報等に関するルールの徹底も重要だと感じる。

(梅谷委員)

家庭の教育力の低下や子どもの体験不足を、すべて学校教育で埋めるのは限界がある。本来は地域で子どもを育てるキャンプなどの機会があったが、それが減り、結果的に学校への負担が増している。地域が学校に入って手伝うことも重要だが、地域と学校がどのように自立し、協力していくべきかが今後の大きな課題である。

(園議長)

倉掛委員のミシン掛けのボランティアはどのような経緯でスタートしたのか。

(倉掛委員)

研修の中で、先生の方から5、6年生の家庭科の縫物の授業をするときに人手が欲しいとい

う依頼を受け、周りに声を掛けてスタートした経緯がある。

(橋爪委員)

古賀市では、PTCA 活動の縮小等により、学校と保護者が関わる機会が減少していることが課題となっている。現在勤務している学校では PTA 活動を通して保護者と話す機会が多く、以前はそうした関わりの中で、他律から自律へと促すことができていた。主体性のみに任せていては参加や活動が広がりにくい現状がある。子どもたちの活動に保護者が自然と参加する状況をつくることで、保護者の満足感や幸福感を高め、協力者を増やしていくことが重要であると思う。

(梅谷委員)

学校としては、本質的には地域で通学合宿のような社会教育をやってほしいと思っているのではないと思うが、そこが難しく、学校に負担が増えていると感じる。

(坂崎委員)

今年の青柳の通学合宿参加者は42名。時代は変わっていくので、子どもたちは1週間参加したら劇的に変わるわけではない。薄い注射のように効果が後から出てくる。通学合宿にみんなの本を置いたけれど好評だった。勉強をしたり、静かに本を読んだりして過ごしたい子のために「しずかちゃんルーム」を用意した。

3. その他

(1) 各委員から

(梅谷委員)

子ども会議に参加した。「子ども計画」の見直しに向けた議論や、子どもが逃げ込める「子ども 110 番の家」の認知度や看板設置による防犯効果など活用方法について活発な意見交換が行われていた。

(石川委員)

7月25日から9日間、夏休み体験教室が始まる。400名の子どもたちが参加予定。

(安部委員)

図書館運営に関する会議に参加した。利用者数の報告だけでなく、一步踏み込んだ取り組みとして、調べ学習コンクールや新聞作りなどの実施ができないか提案し、検討してもらうことになった。

(2) 事務局から

10月16日(金) 福岡ブロック社会教育委員研修会(伊都文化会館)

11月5日(木)～6日(金) 九州ブロック社会教育委員研修会

市民会館シアーズホーム夢ホール (熊本市市民会館)

(3) 次回開催日程

8月 28 日(金) 18:30 ～ 会場: 103洋室

4. 閉会